

第5回木曾川水系連絡導水路環境検討会 議事要旨

日 時：平成20年7月14日(月) 10:00～12:30

場 所：県民文化ホール未来会館 長良川ホール

1. 開会

2. 主催者挨拶(中部地方整備局木曾川上流河川事務所長)

3. 座長挨拶

4. 議事

(1)報告事項

第4回環境検討会議事録
連絡導水路事業に係る動き
環境影響検討の進め方

(2)本日の説明事項

第4回環境検討会意見への対応状況
調査・検討の実施状況
環境影響検討項目及び予測・評価の手法
環境レポート(検討項目・手法編)(案)
予測結果の速報(水質)
自然由来の重金属等に関する調査

<主に次のような意見を頂きました>

【(2) について】

- ・ 「景観」の視点場については、法アセスの文言だけにとらわれるのではなく、本当の意味での視点場について設定方針をはっきりさせておくこと。また、景観法に伴う市町の景観計画の内容においても文字面だけで鵜呑みにするのではなく、検討の必要性を十分吟味した上で、検討地点を設定し調査すること。
- ・ 「人と自然との触れ合いの活動の場」は、あえてつくるのではなく、すでにある場所を有効活用することを考えてほしい。さらに、自然そのもののダイナミズムを考えて検討していただきたい。
- ・ ヘキサダイアグラムやトリニアダイアグラムを使って、地質の違いによってどんな特質があるのか確認すること。

- ・ 生態系（典型性）の陸域については、改変する場所の面積が小さく、さらに上流から下流まで点在しているため、実態をつかめないのもので、取り扱わないことで了解した。
- ・ 動植物、生態系については、貴重種だけにとらわれるのではなく、もっと全体的な視点から調査・評価をしてもらいたい。
- ・ ミティゲーションの目的ややり方を十分検討したうえで、施設配置を計画すること。
- ・ 「予測・評価」における環境影響の度合いを示す指標については、比較するもとの理由等を具体的に検討・整理し、その上で評価すること。
- ・ 今までの環境影響評価だと至近10箇年を検討して、変動の範囲内であればいいという評価の仕方であるが、それだけでは十分ではなく、通常時、湧水時さらには流況、木曾川水系のダムの貯水状況等を考慮して、いろんな状況の場合について環境影響を予測・評価していく必要がある。
- ・ 建設発生土は、概算で数十万 m³ のオーダーになると考えられるため、1箇所に入れてしまうと景観を損なう可能性もある。出来るだけ早い段階で予測・評価の中に組み込んでもらいたい。
- ・ 地形改変地の植生の復元・緑化については、郷土種（在来種）を十分に用いて緑化・復元していくように考える必要がある。

【(2) について】

- ・ 水温・水質はあまり変わらないという結論であるが、モデルが合っているからと言って、モデルの計算結果で評価するのではなく、変動幅があることを前提に評価する必要がある。
- ・ SSについてはデータ不足と考えられるため、実測データを補填する努力が必要。
- ・ 精度については、モデル自体の精度という問題もあるが、境界条件は時々刻々と実測値を与えているわけではないため、誤差が出るのは仕方がない。したがって、ある程度の誤差を持っていることを前提に評価していくことが必要である。

(3) 今後の予定

次回環境検討会は、調査検討の進み具合を踏まえて適切な段階で行うものとする。

5 . 閉会